

東京電力川崎火力発電所リニューアル計画の概要

1～6号機を廃止（平成18年3月27日付で廃止済）して、敷地内に最新鋭LNG火力発電設備（MACC・2系列）を設置する計画。

MACC（More Advanced Combined Cycle）とは、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた改良型コンバインドサイクル（ACC）発電システムをベースに、ガスタービン入口温度をさらに高温化した高効率・大容量の発電方式。

ガスタービンの耐熱材料の開発、ガスタービンの蒸気冷却などの技術革新により、1,500 級まで高温化することで、世界最高水準の約53%の熱効率を実現する。

【設備概要】

- ・出力：150万kW×2系列（1系列3軸構成 合計300万kW）
- ・発電設備：1,500 級コンバインドサイクル発電設備（MACC）
- ・使用燃料：LNG
- ・熱効率：発電端 約53%（低位発熱量基準^{（注）}：約59%）
- ・運転開始：1号系列（19/7～21/7） 2号系列（28年度以降）

^{（注）}低位発熱量基準は、燃料中の水分および燃焼によって生成された水分の凝縮熱を差し引いた低位発熱量を基にした熱効率であり、高位発熱量基準（約53%）は、凝縮熱を含めた発熱量を基にした熱効率。

以上